



大野一心

NO.20

令和5年7月10日（月） 文責：校長 諸熊 修一

令和5年度「少年の主張弁論大会」

7月8日（土）に体育文化会館コミュニティーセンターにおいて、「佐世保市少年の主張大会」が実施されました。昨年度は入場者の制限や発表者を3グループに分けて開催しましたが、今年度は「コロナ前」と同じように発表者全員が一堂に会しての発表会となりました。



本校からは、3年9組の岸野羽汰さんが代表として出場しました。自分自身のつらい体験を基に今の自分の思いや考えを綴（つづ）ってくれました。指導した松本先生や担任の石橋先生と一緒に、前日まで何度も何度も練習をして本番に臨みました。本番はとても緊張したと思いますが、一言一言丁寧に述べて、とても立派な発表でした。「羽汰は生まれてすぐに一生分の痛くてつらい思いをしているから、あとは寿命まで幸せに生きていだけ」「辛さの分だけ幸せがある」「みんなの希望になりたい」など、数多くの言葉が会場にいる人々の心にとっても響き、会場からの拍手も一段と大きいものでした。私もとても感動しました。見事に参加者29名中、3位にあたる「佐世保市青少年連盟賞」を受賞しました。以下に発表内容を紹介します。

「大きな命へ」

728グラム。これは私が生まれたときの体重です。3000グラムという標準体重と比べると、わずか四分の一程度のとても小さな体で生まれました。自分で呼吸をすることもできず、たくさんの管につながれ、「助けることは難しい」と言われたそうです。

みなさんは私を見て何か気づくことはないでしょうか。7か月で生まれてしまった私には、母のお腹の中で完成できなかったところがあります。それが「目」です。赤ちゃんがお腹にいる間、最後に完成するのが目だそうです。私は左の眼球が未完成のまま生まれ、物を見ることも光を感じることもできません。だから、私の左目には義眼が入っています。この義眼は、顔の形を整えるために使用しているのです。

この目のことで、一度だけとても悲しい出来事がありました。私の義眼を見て、同級生が放った一言。

「気持ち悪いから早く死ね。」

私は悔しくて泣きました。義眼というだけでどうして死なないといけないのか。「気持ち悪いって何？」たくさん泣きました。そして、私以上に泣き、怒っていたのが母です。「あ

（裏面へ）

あなたは何も悪くない。」と何度も何度も言ってくれました。私は、母の言葉とその子の謝罪で徐々に許すことができましたが、今でもあの言葉は私と母の胸に刺さったままです。

今の私の話を聞いて、「不自由そう」「可哀想」と思った人もいるかもしれません。しかし、私は毎日楽しく生活しています。私は小さい頃から母にこう言われてきました。

「羽汰は生まれてすぐに一生分の痛くてつらい思いをしているから、あとは寿命まで幸せに生きていだけだね。」



辛さの分だけ幸せがあるのです。私の兄は、嫌なことがあっても「気にしなくていいよ」と言ってくれます。友人は、私が見えづらそうにしていると気が付いて教えてくれます。このように、私には家族や友人、先生方や医療従事者の方など、たくさんの応援団がついてくれています。残った右目も、低い視力ながらも一生懸命私のために頑張ってくれています。だから、今の日常に幸せを感じ、前向きになることができました。

私には夢があります。盲学校の教師になることです。応援団からもらったたくさんの優しさを、今度は私が視覚障がいのある子どもたちに与えていきます。障がいがあっても夢は叶えられることを証明し、みんなの希望になりたいと思っています。

ただ、忘れないでください。こんな前向きな私や母の胸にも未だに言葉の傷は残っています。簡単に「死ね」と言う人、自分と違う部分を馬鹿にする人。あなたのその一言が誰かの心に刺さり、一生残り続けることをどうか忘れないでください。

今、生きていくことが辛いと悩んでいる人たちへ。私の命ははじめ、本当に小さな、消えかけていた命でした。しかし、今は周りの方々の優しさを受けて少しずつ大きな命へと育てています。そして、感謝を忘れずに思いやりをもつこと、夢を叶えるために努力することなど、自らの行動によって命はもっと大きくなると思っています。

あなたがどんなにちっぽけな、小さな命だと思っても、その命は誰かにとってとても大切に、周りの支えや自分の力でさらに大きな命へと育てていくのです。だから、自然に命が消えるその日まで今ある命を大きな命へと育てていきましょう。

副校長のへや

以前、安心メール等でもお知らせしたとおり、本校ホームページに「副校長のへや」【通称：洋子（ひろこ）のへや】を新設しました。「徹子の部屋」に負けないように、長寿コーナー（コンテンツ）にしていきたいと思っています。ゲストは毎回登場しませんが、川尻副校長が大野中学校の日々の生活の中で感じたこと、気づいたことを随時発信していきます。どうぞ定期的にご覧ください。

